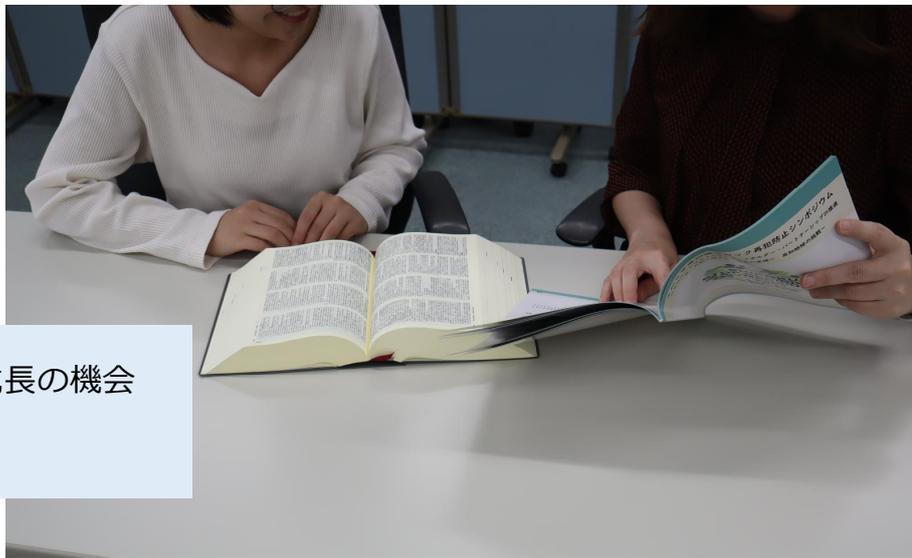


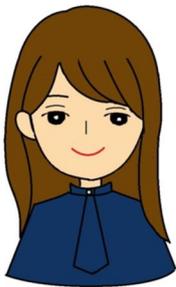
若手×先輩職員対談

Produced by おしえて！先輩



個々のキャリアパスに応じた成長の機会
を提供していきたい

PROFILE



O

平成17年入庁

検察事務官

会計課に配属時に入庁1年目のM
の指導を担当。
現在は、広報を担当。



M

H31年入庁

検察事務官

入庁1年目に会計課に配属。
その後、検務官室や立会事務官
など様々な部署を経験し、現在
は人事課に配属。

後輩が目標を達成するプロセスを支援したい

- O Mさんは、入庁1年目で会計課に配属になった訳なんだけど、検察庁といえば“捜査”のイメージが強いから、少しびっくりしたんじゃない？
- M 元々事務職がしたいという気持ちが強かったので、いきなり右も左も分からない捜査の仕事をするよりは、会計課の方がなじみやすそう！と思っていました。
でも実際に会計課の仕事をしてみると、初めて聞く単語であふれていて、まずは言葉を覚えるところからだな……とちょっと自信をなくした記憶があります……（笑）
- O そうだったんだね。
- M Oさんのことで、印象深かったのは、入庁直後に私の「指導計画」を教えてくれたことでした。
どんなふうに、私を育成していくのか、最終的な目標はどこなのか説明してもらえて、とても分かりやすかったです。
- O そう言ってもらえると嬉しいな。私が後輩を指導するときは、1年単位での目標、具体的には、1年後にどう成長してもらいたいのかという観点で指導計画を立てています。そして、それを後輩にきちんと伝えて、本人の希望とすりあわせをするようにしています。自分に任される仕事はどうやって選別されているのか分かった方がやる気につながるし、最終的な目標がどうして設定されたか、その目的を共有できれば達成意欲が高まるんじゃないかなと思います。

M たしかに。任される仕事の難易度が上がれば、次のステップに進めたんだなって実感しました。

O 自分自身の成長って、自分じゃ分かりづらいから、こういった客観的な結果を積み重ねることによって、成長を実感してもらえるよね。ただ、この「指導計画」も絶対ではなくて、業務の繁忙や本人の進捗にあわせて定期的に見直しをしています。Mさんの時も、最終目標に設定していた案件が業務都合で実施できなくなってしまったので、新しい最終目標を設定したよね。あのときはごめんね。

M いえいえ。目標が変更になった理由も説明してもらえたので、納得して取り組みました。

O 本人の意向や実際の進捗を踏まえた柔軟な指導計画を設定して、後輩職員に適切な成長を促しつつ、個々のキャリアパスに応じた成長の機会を提供することが、若手の育成においては大切だと思っています。そして、先輩にとって大切なのは、後輩が目標を達成するプロセスを支援することだと思います。そのためにも今、どんな助言や指導が必要なのか、積極的にコミュニケーションをとって把握することが大切だよ。

M たしかに、Oさんは、私が困っていると、何も言わなくても「どうしたの？」って声をかけてくれましたね。

私は、会計課での仕事で一番印象に残っているのは、職員の使うデスクマットを購入したことです。

必要個数とサイズの確認のために、ほぼ全職員の方のデスクマットの状況を確認しました。それまでほかの部署の人と関わる機会があまりなかったので、お仕事の邪魔になるんじゃないかとちょっとビクビクしてました（笑）でも、皆さんに快く協力してもらえたとし、新しいデスクマットもとても喜んでもらったので、頑張ってた良かったと思えました。

O Mさんをお願いした案件は、事前調査と各課との調整が必要な難しい案件だったよね。でも、Mさんは、ひとつひとつ丁寧に、粘り強く頑張ってくれていたことを覚えています。

結果として、Mさんに任せて良かった！って心の底から思えました。

ちなみに、私は、会計課で一番印象に残っているのは、仕事のことじゃないんだけど、Mさんから、クリスマスプレゼントにソックスをプレゼントしてもらったことです。とっても気に入って、穴が開くまで履いてたよ（笑）素敵なプレゼントをありがとう！

M 気に入ってもらえて嬉しいです。

共に悩み、共に挑み、生まれる絆

O Mさんは、その後、入庁2年目に、今度は検務官室の事件係（警察等の捜査機関から送られてきた事件について受理手続を行ったり、裁判所に対して逮捕状や勾留状などの令状を請求する事務手続をしたり、令状を執行する部署）等を経験した後、立会事務官（検察官とともに捜査や公判業務を担当する事務官）に異動になるわけだけど、立会事務官といえば、「検察庁の花形」ともいわれる部署だよ。実際に配属されて、持っていたイメージとのギャップはあった？

M 立会事務官になる前は、立会事務官といえば、「多忙で残業や休日出勤が多い」イメージでした。でも、実際配属になってみると、そうでもなかったですね。

たしかに、取調べのために休日出勤したことはありますが数回程度でしたし、超過勤務も検事から「早く帰れるときは帰ってね」といつもお声がけいただいたこともあり、そこまででもありませんでした。



M ただ、私は入庁するまで法律について勉強したことがなかったので、その点はやっぱり大変でしたね。研修で法律の基礎知識は教えてくれますが、やっぱり実務となると分からなくて。

何度本を読んでも理解できないときは、会計課の時と同じで言葉の壁を感じましたね。日本語のはずなのに法律用語の言い回しって本当に日本語じゃないみたい。

でも、周りの皆さんが根気強く教えてくれましたし、検事も優しい方で初心者の私でも分かりやすく説明してくれて……。検事が説明してくれる方が、本を読むよりずっと分かりやすかったのでとても助かりました。お忙しいのに、丁寧に教えてくれて、とても感謝しています。

それと、私の場合は、もともと捜査に強い憧れがあったわけではないからかもですが、どちらかというと、いきなり初めましての検事と二人三脚で勤務というのがハードルが高かったです（笑）

O 最初は、人見知りしちゃった？

M はい（笑）

立会事務官の時は、取調べのために警察署に出張することも多かったですし、カメラを持って事件現場に足を運んだり、交通事故の照射実験をしたり、海事事件の目撃状況の再現のために船に乗ったり……大変なこともありましたが、本当にいろいろな経験をさせてもらいました。

いろいろなことを2人で乗り越えているうちに、信頼関係や絆が生まれた気がします。

なんでもできる頭のいい検事が私を頼ってくれるというのは、なかなかすごいことだなと思います（笑）

Oさんはどうでしたか？

O 私も取調べのために休日出勤したり、深夜まで判例を調べたり、取調べのために車で遠方の県に日帰り出張したり……と大変なことはやっぱりあったね。

ペアの検事は、自分自身が事件現場に足を運んで、“見ること”、“聞くこと”、“感じること”を通して、“現場を知ること”をとっても大切にしていた方だったので、出張は多かったね。

出張が続くと、デスクワークがたまっちゃうので、大変ではあったけど。でも、検事と一緒に出張の時って、仕事以外の話をするのもあって、普段は見られない意外な一面を知れて楽しかったな。

M 意外な一面ですか？

O 例えば、私が運転中に眠くならないように、ずっと「しりとり」をしてくれたりとか（笑）

M ほっこりしますね！

O 立会事務官のときは、たしかに大変なことも多いけど、どんなに大変なときも“1人”ではなくて“2人”だったよね。隣を見るといつも検事がいて、私より疲れているはずなのに、必死に頑張ってる。そんな姿を見たら、私ももっと頑張らなきゃってなるよね。

M そうですね。

私は、被疑者や被害者の方の「声」を聞くことが一番できるのは立会事務官だと思います。どんな人でもそれぞれ考え方や想いがあるって、この人にとっては、この一瞬が人生における一大事で転機なのかも、とか考えていると淡々と事務処理をするだけではいけないなと身が引き締まる思いでした。

小さな優しさが積み重なれば、もっといい職場になる

O Mさんは、入庁6年目ですね。この先、どんな仕事をしていきたいと考えていますか？

M 6年目にもなると、この部署の仕事はここからここまでっていう線引きが結構分かるようになってきて、分からないことを誰に聞いたらいいとか、誰と相談したらいいとかなんとなく分かるんです。

でも、最初は、どこに聞きに行けばいいのかわからないことも多くありました。

皆さん忙しそうだから聞きづらいな……と思うとどんどん聞きづらくなってしまって。勇気を出して聞きに行っても上手く伝わらなかったり、「担当部署はここじゃないよ。」と言われることもありました。

そんなときは、やっぱり悔しいし、悲しい気持ちになりました。

私は1年目のときに悩んでいることがあると、こちらから何も言わずともOさんが「どうかした？」って声をかけてくださったのが嬉しかったですし、検事が忙しそうなときに私がためらいつつ「今ちょっとだけいいですか？」って声をかけて、快く「いいよ。」って言ってもらえるとほっとしたんです。

O たしかに、分からないところを人に聞くってことは簡単なように見えるけど、難しいし、勇気がいるよね。

M はい。あの時の悲しかったり、悔しかったりした気持ちって忘れてはいけないと思うんです。

後輩には同じ気持ちになってほしくないなと思います。

だから、もし、後輩が私を頼ってきてくれた時はもちろん、それ以外でも、私の“手”が届く範囲の後輩が困っていたら、できるだけ力になりたいと思っています。

私が求めている答えを伝えられることが一番だけど、答えを伝えられなくても一緒に調べたり、考えたり、知っていそうな人に一緒に聞きに行くことはできるので、そうすれば、少なくとも1人で悩むことはなくなると思うんです。

そして、今後は、少しでも自分の“手”が遠くまで届くように、多くの知識を蓄え、経験を積んでいきたいと思っています。

O 素敵な先輩だね。Mさんへの後輩からの問い合わせが殺到しそう（笑）

M 頑張ります！

事件の終結に向けて検察庁っていう組織が1つになって頑張らなきゃいけないと思うし、本当に風通しのよい職場ってみんなが優しくてコミュニケーションがとりやすい職場だと思うから、みんなが小さな優しさを積み重ねて、検察庁全体があたたかい職場になればいいなと思います。

O 私も、Mさんには、頼りになる「後輩」として、今後色々相談したいなと思います。今日は、貴重なお話ありがとうございました。

